

目で聴く 耳で聴く

「聞く：自然と耳に入ること」、「聴く：聞こうとして聞く。注意して聞くこと」とし、子どもたちが積極的に話を聴く態度を育てたいと考えています。

始業式及び入学式、その他のあいさつの時、子どもたちに、「先生や友だちの話は、目で聴く 耳で聴く」、理由は目で聴くと相手の顔で、怒っているのか、悲しんでいるのかがわかり、耳でもしっかりと聴くことが、大切な勉強につながっていくと話しています。

子どもたちに期待することは、たくさんあります。その中で小学生が聴いて分かることは何だろうと考え抜いた末、「先生や友だちの話は、目で聴く 耳で聴く」ことを徹底したい、と思いました。まず、「聴く」という環境が整っていることが重要あると考えたからです。

「目で聴く 耳で聴く」は、小学校だけでなく、幼稚園等、中学校、高等学校、大人になってからも、とても大切なことではないでしょうか。

私は、この「聴く」ことで、自分自身の向上はもちろん、互いに相手を認め、勇気づけ、温かい人間関係を築くことができると考えています。

駒形小学校がスタートして20日あまり過ぎました。子どもたちは「目で聴く 耳で聴く」の約束を守っています。本当に、素直な子どもたちです。

そこで、保護者のみなさんにお願いがあります。

学校で「目で聴く 耳で聴く」をがんばってきた子どもは、家庭でお話しします。その時、保護者のみなさんに、子どもたちの話を聴いていただきたいと思います。

お忙しいかと思いますが、子どもたちが、いっぱい勉強してきた証です。

どうぞ、よろしくお願いいたします。